

NPO 法人岡崎がくどうの会

## 基礎研修レポート 2022「生活と集団づくりの方法」

【クラブ】（ 風の子クラブ ）  
【名 前】（ 川原 郁美 ）

性別も違い、年齢も違い、考え方や感じ方も違う子どもたちが集団生活をする学童保育所で、子どもたちの居場所を作り、居心地の良い空間を作っていくためには、日々の生活と集団生活を行うこととのつながりを意識していくことが必要だと思い、受講しました。

常勤の指導員として勤務し始めて半年が経ちました。子どもたちと生活をする際に、異年齢の集団をどう同じ活動をとるにしているのか、考え方も感じていることも、行動パターンまた、発達もそれぞれな子どもたちをどのようにまとめて、子どもたちにとって心地の良い環境を作っていくのか悩むことがありました。子どもの 1 人ひとりの要望や欲求をできる限り叶えてあげたい、受け止めてあげたいと思いつつも、集団を動かしていかなければならない場面では、自分がどう振る舞うべきかも考えます。そんな中での先生のお話で、「子どもの集団の前に指導員の集団が形成されることで、子どもたちにいい影響がおのずとついてくる」というお話から、『子どもたちにとって』を優先に考えるなかでも、指導員集団がうまくいっていなければいい結果は生まれないのだと学びました。子どもの集団作りだけでなく、指導員の集団作りにも気を配れるようにしていきたいと思いました。また、「集団は同質でなくていいし、同質ではない。異質なものだけだと協働できるのが集団でありそこから活動をつくる」といったお話が印象に残りました。

これからの指導員生活のなかで、いろいろな場面で集団作りや子どもたちにとっての居心地の良い生活とはなにかに悩むことがあると思いますが、子どもにとって良いものを最優先に考えて、行動していきたいと思えます。